

平成 29 年度 社会福祉法人 誠真会 事業報告

平成 29 年 3 月に開設した企業主導型保育事業「キッズプラザながしま」ですが、運営の課題は安定的な園児の確保でありました。提携企業の出産適齢期の職員も減少傾向でありまた職員の退職や地元の保育園に空きが出る転園してしまふなど、月によって園児数が変動します。年度初め定員 30 名のところ 21 名でスタートしましたが 7 月には 19 名と減少しました。

安定的に園児を確保するには地域枠の園児を受入れることですが、職員をはじめ新規採用の際に保育園が利用できないという状況が生まれ企業主導型のメリットがなくなっています。そして、何よりも桑名市には待機児童はなく、また「保育の必要性の認定」について、児童育成協会が定める基準と相違があり対象者が限られ安定的な園児の確保はできない。このことから地域の企業と利用契約を進め、それも多く企業の企業と契約を行うのではなく、出産適齢期の職員が多い企業と契約することで安定的な園児が確保できると考え、三井アウトレットジャズドリムながしまに人材派遣を行う株式会社スタップブリッジと利用契約をいたしました。8 月以降は順調に園児も増え、1 年間を通して 8 割稼働と今後の指標となる運営ができました。今後は保育の質を高めるとともに働くママを応援する社会の流れを当法人から発信できるよう、従業員をはじめ、より多くの方々の仕事と育児の両立支援の一助となれるように努めていきたい。

さて、グループホームながしまは、依然として厳しく入居率 7～8 割を推移しております。そして平成 30 年 4 月の医療保険と介護保険の同時改定を控え、今後も厳しい経営環境を予想しておりますが、年始めに改正内容が明らかになり、医療機関をはじめ介護老人保健施設に在宅復帰の義務を課せられたことで、在宅とされるグループホームなどの居宅系施設の高まりました。この影響で期末には 5 年ぶりに満床となり、年間通して 9 割稼働が行うことが前期に比べ増収となっております。しかし、利用者の環境改善のために椅子やソファ、電動ベッドなど備品を改め、そして空調をはじめ給湯器などの施設の老朽化に伴う故障が相次ぎ修理による経費がかさみ最終的に赤字となりました。今後も入所需要は高く継続すると考えられる。この状況を見据え、設備について計画的に修繕を図っていきたい。

法人としては、新事業のキッズプラザながしまによる増収によって、運営基盤が強化された法人開設依頼の黒字経営となりました。今後は健全な事業運営の持続のため、サービスの向上に努めて参ります。